

人の墮落

一人の善い性質と悪い性質 との奥義を開く

「わたしは善をしようと欲するのですが…かえって自分が欲していない悪を実行しています…それを行ない出すのはもはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪です」

(ローマ第7章 18、20 節)



人は神を入れ、神を内容とし、神を表現するように、神のかたちに造られました。このため、すべての人に神の性質に合致した「善い性質」があります。ところが、人の内にはまた「悪い性質」もあって、善い性質と争い合います。どの時代、どの国においても、人の性質を深く認識している人たちはみなこの事実を認めています。

この悪い性質が、聖書の言っている「罪」です。罪は人の内に住んでいて、人が願うことを実現できなくさせます。そればかりか、高ぶり、しっと、かんしゃく、姦淫、人殺しなど、人が願わないことをさせます。罪は人の内に生き、活動的で力があり、人にはこのような罪に打ち勝つ力がありません。そのため、人は昔から、内側に住む罪から逃れ、外側で罪を犯さないようにとあらゆる方法を考え尽くしてきました。しかし、教育も、道徳・倫理も、善行も、読経も、座禅も、宗教も、いかなるものも人を内側と外側の罪から救い出すことはできません。

なぜ、人の内に罪が住んでいるのでしょうか。それは、最初の人アダムがエデンの園で悪魔の誘惑により善悪知識の木（悪魔）から食べ、「悪魔の命と性質」が彼の体の中に入ったからです。アダムは自由意志を用いて命の木（神）から食べ、神の命と性質を彼の霊の中に入れるべきでした。人の体の中に入った悪魔の命と性質が内住の罪です。内住の罪は、人の霊を死なせ、人の魂を神に敵対させ、人の体に様々な罪を犯させます。こうして人の霊、魂、体全部が変化し、神のかたちに造られた人は神と神の目的から墮落しました。まるで、どぶに落ち、本来の美しい形は残っていても、泥にまみれたコップのようです。また、音楽を流せないだけでなく、いつも雑音を発している壊れたラジオのようです。

そのため、神は肉体と成り、人としてこの地上に来られました。この方が主イエス・キリストです。彼は肉体において「十字架」につけられ、それを通して人が外側で犯したすべての罪は取り除かれ、人の内側の内住の罪は裁かれました。彼は三日目に復活し、「命を与える霊」と成って、彼を信じ受け入れた人の霊の中に入り、「神の命と性質」を分与します。神の命と性質は内住の罪に打ち勝ち、内住の罪から人を解放して高く舞い上がらせ、さらには神を表現する生活を生きさせます。